

これからの自動分析装置に求めること

デイド ベーリング株式会社 マーケティング部 弁谷 知道

厳しい医療環境の中、コスト削減、効率化といった強い要望が押し寄せています。しかしながら、臨床検査が医療において本来求められている役割を果たすためには、コスト、効率といった経済性だけでなく、患者様の QOL、医療・診療の質の向上、病院経営の健全化に貢献できる「サービスや付加価値をより一層充実していくことが重要です。

また、採血業務や生理検査の拡充に加えて、臨床検査のプロフェッショナルとしての専門性を生かした活動、すなわち検査情報の提供、適性検査のアドバイス、チーム医療への貢献といった活動を、検査部組織全体で戦略的に実践していくことにより、患者様や臨床にも顔の見える検査室、すなわち患者様を中心とした検査室を実現できるのではないのでしょうか？

人員削減で到達できうる部分的な効率化やコスト削減は、もはや限界に来ており、これまで以上の抑圧は検査本来の役割を果たすための知識向上やコミュニケーションといった基礎体力すら失いかねません。検査が、臨床、患者、経営サイドから正しく評価され、本来の役割を発揮するためには、今まさに顔の見える活動を実践し、実績というかたちでアピールしていくことが重要です。

本セミナーでは、このような検査室の活動に貢献できる新しいコンセプト、機能、原理について紹介します。